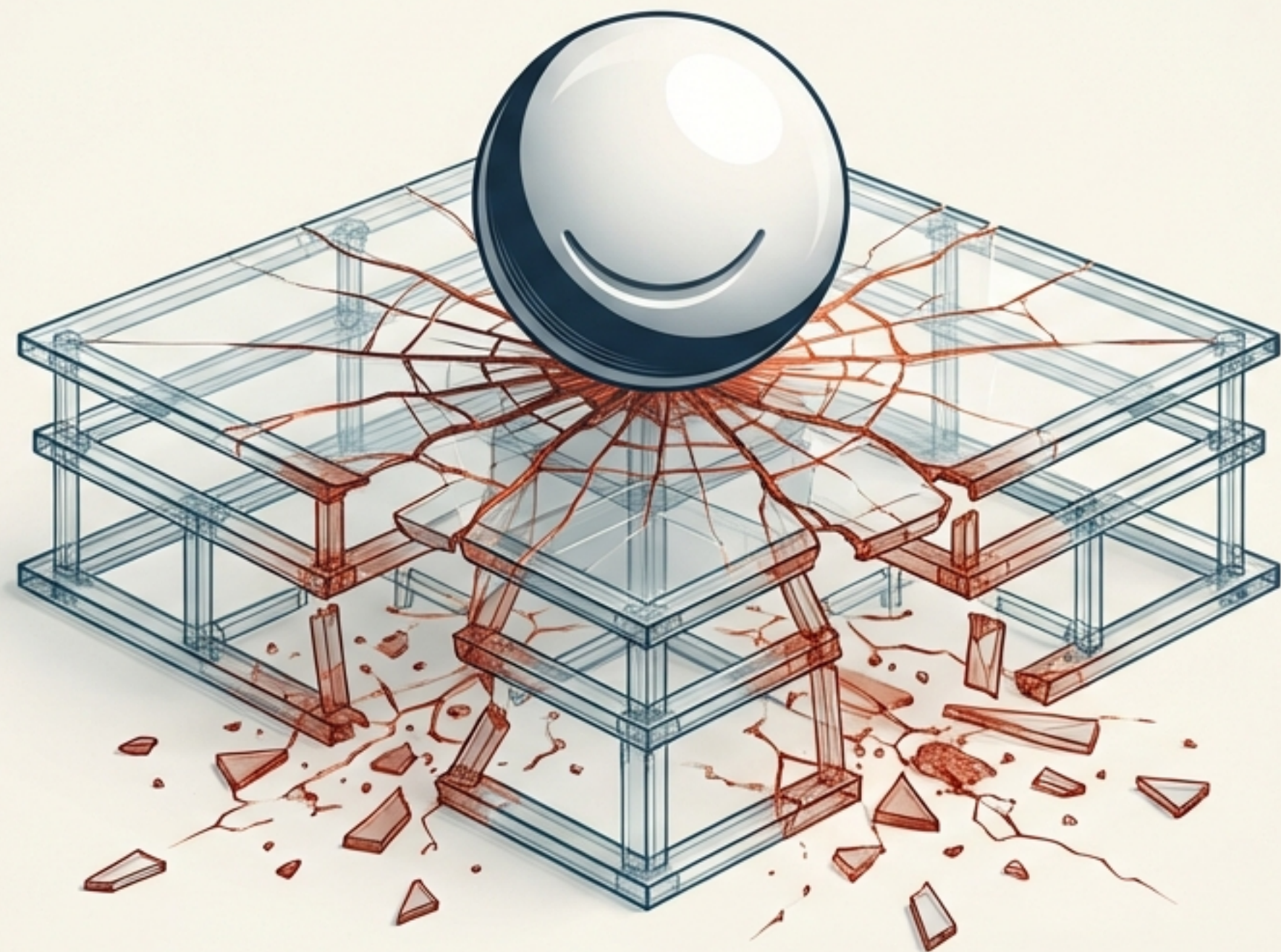


「罪」を裁くな、「ズレ」を修正せよ

構造的司法OSの原理と「多層連結価値監査」の全貌

感情の法廷から退出して、因果の制御室へ。

なぜ私たちは、善良な顔をして 組織を壊すことができるのか？



既存の「評価」と「罰則」は
限界を迎えている。

- 正しい言葉（発言）
- 善良な態度（感情）
- ルールの遵守（制度）

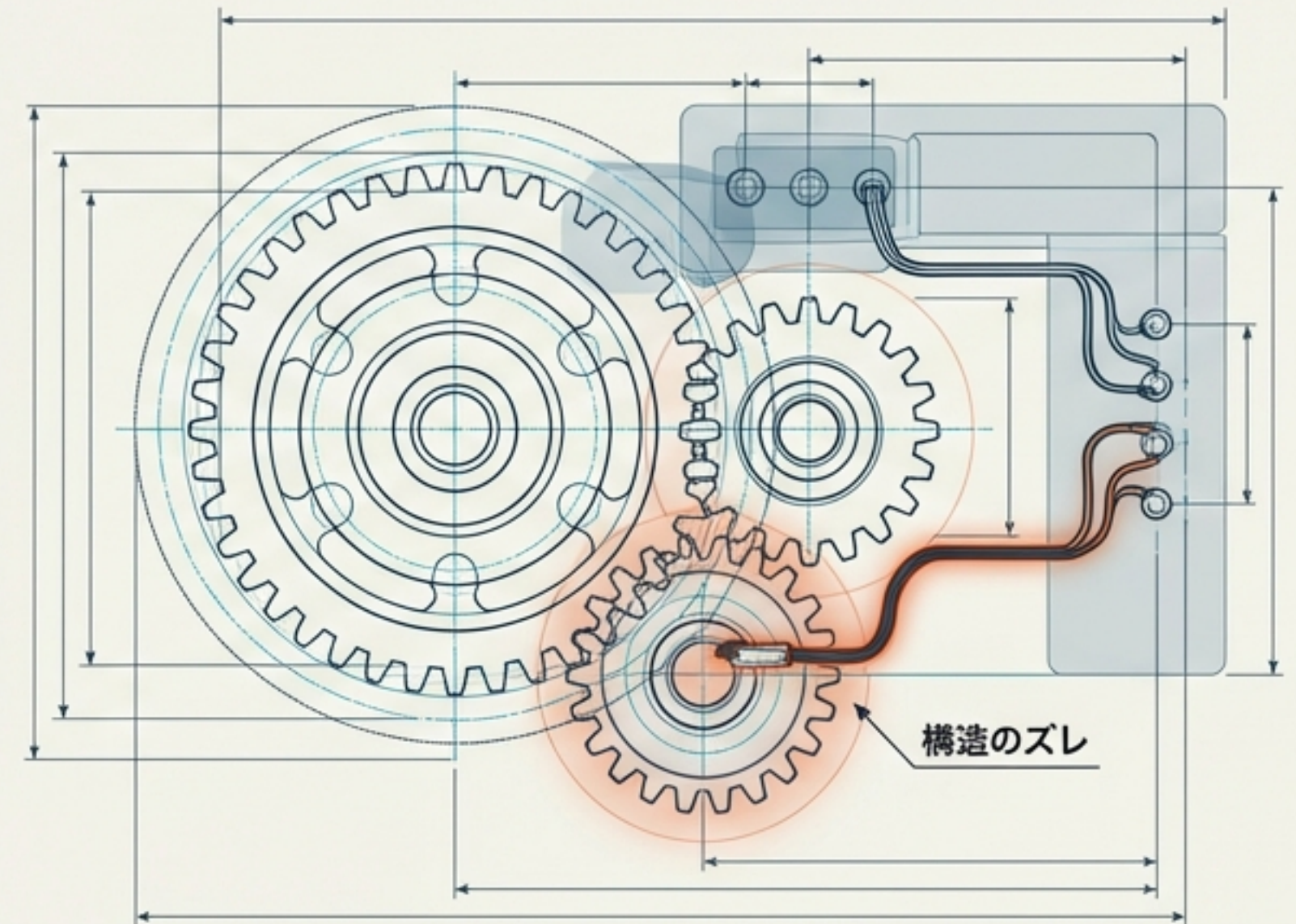
これらを満たしながらでも、
人は構造を破壊できる。

問題の真因は「悪意」ではない。

裁かれているのは「人格」ではなく「配線のズレ」

- ・ 善意が不利になる構造
- ・ 正直者が損をする評価軸
- ・ 短期成果だけが報われる報酬設計

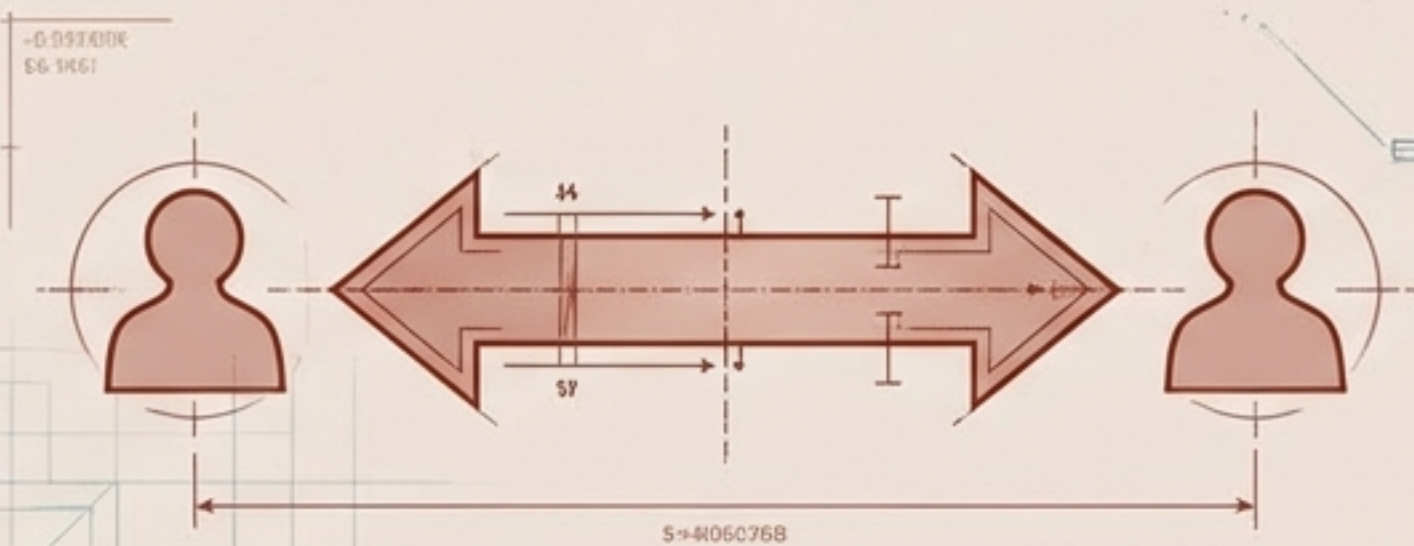
これらはすべて、価値関数と因果配線の「ズレ」が搾取(E)を増幅させている状態である。壊れた回路に怒鳴っても意味はない。必要なのは原因特定と再配線だ。



パラダイムシフト：「断罪」から「整合」へ

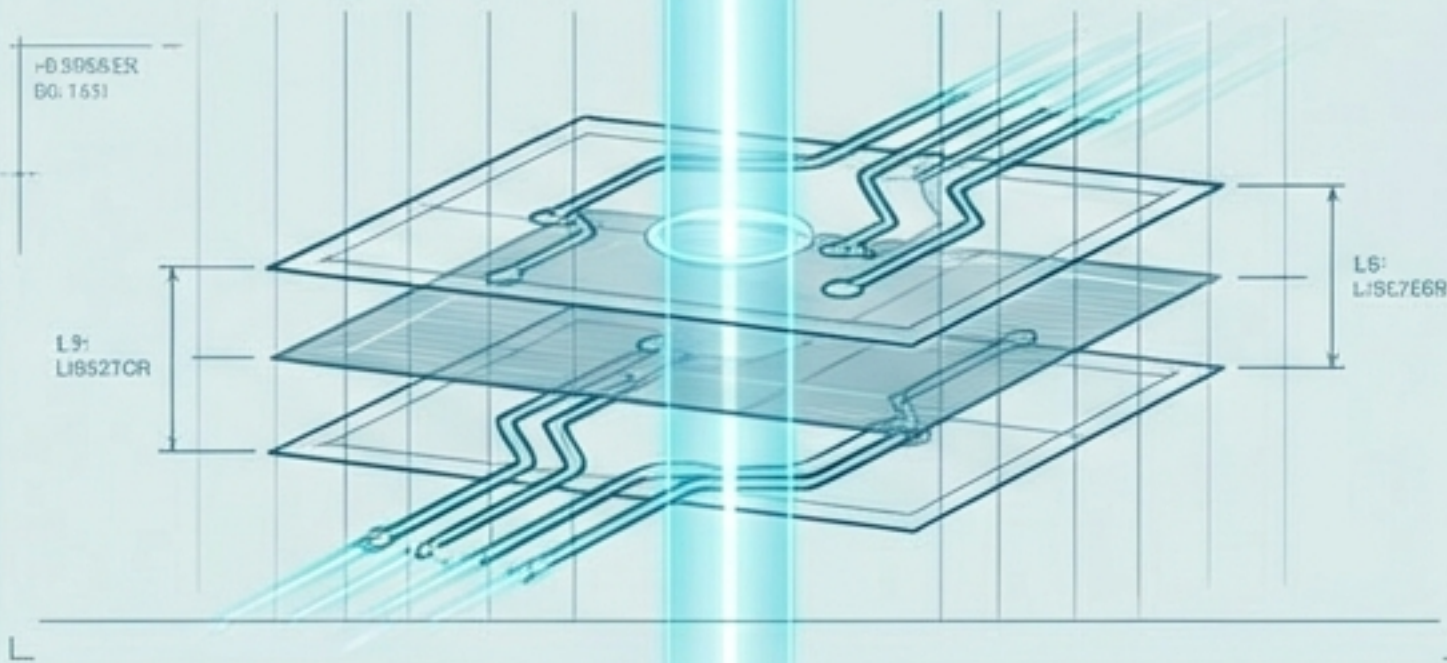
従来司法 (Human Law)

- 基準：法律・道徳・感情
- 対象：個人・行為者
- 目的：処罰・断罪
- 視点：水平比較（誰が悪いか）



構造的司法OS (Structural Justice OS)

- 基準：価値関数 (L7)
- 対象：因果回路・接続構造
- 目的：整合・沈降・自己修復
- 視点：垂直スキャン（配線は正しいか）

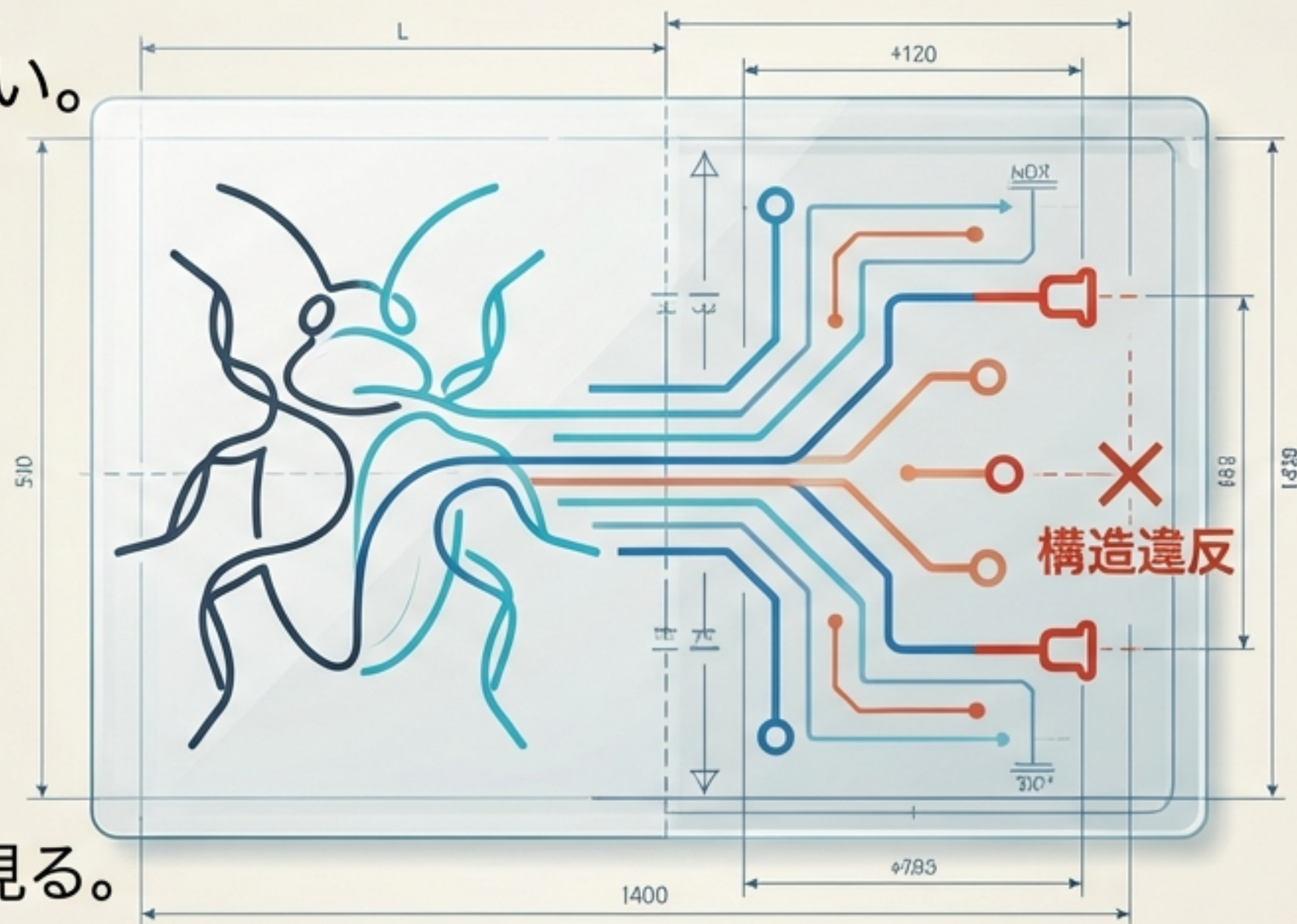


「罪」の再定義：道徳的悪ではなく、構造違反

罪とは、悪いことをしたことではない。
価値関数に反した因果回路を生成・
増幅させた状態である。

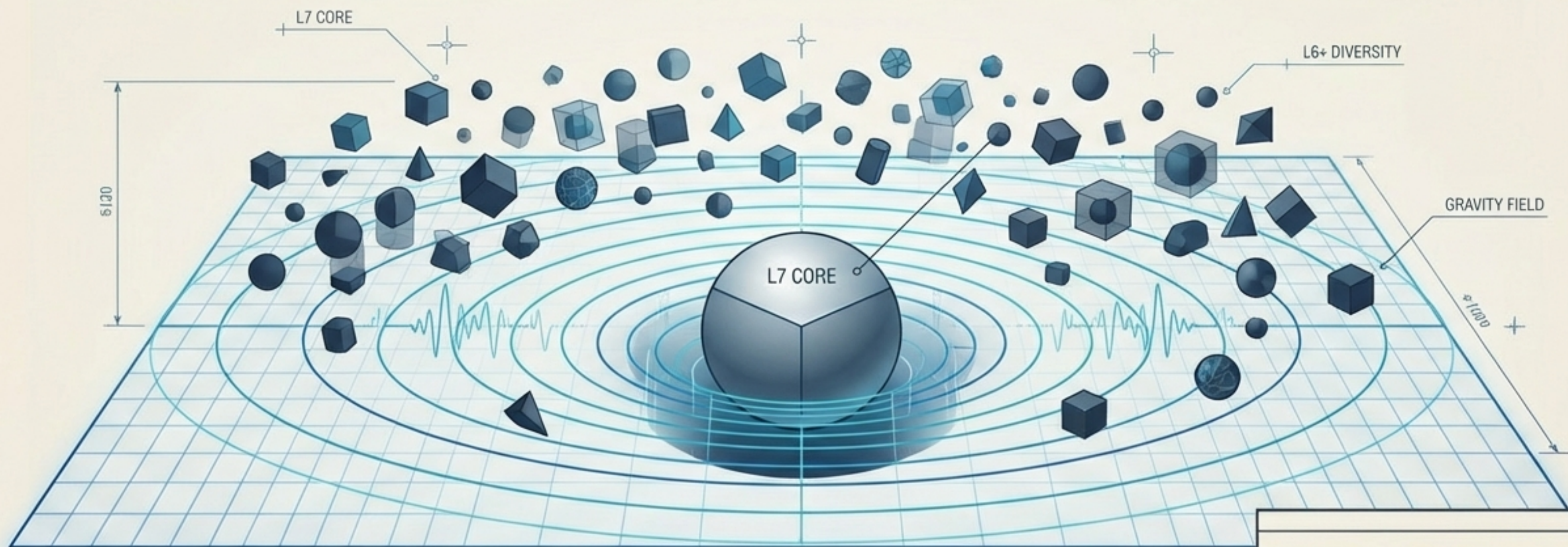
- ・ 自己利益のための全体の崩壊
- ・ 短期的成果による長期的安定の破壊
- ・ 搾取 (E) を増やす接続

意図の有無は問わない。
結果として「何が増幅されたか」だけを見る。

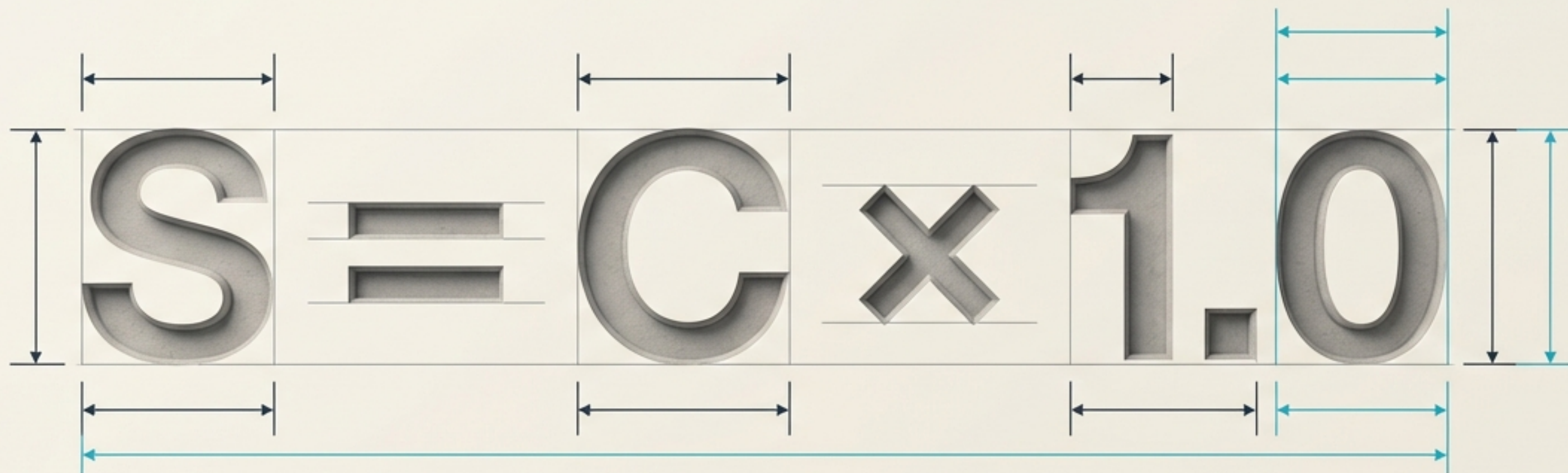


絶対基準としての L7 「価値関数」

L7（価値関数）は、任意に変更可能な「目標」や「思想」ではない。文明が自壊しないために確定された、唯一の重力場である。下位の制度（L6以下）での多様性と自由を最大化するために、最上位の価値関数だけは絶対に固定されなければならない。



文明存続の絶対公理



$$\text{成功 (S)} = \text{貢献 (C)} \times 1.0$$

搾取 (E) がわずかでも混入した瞬間、成功は成立しない。

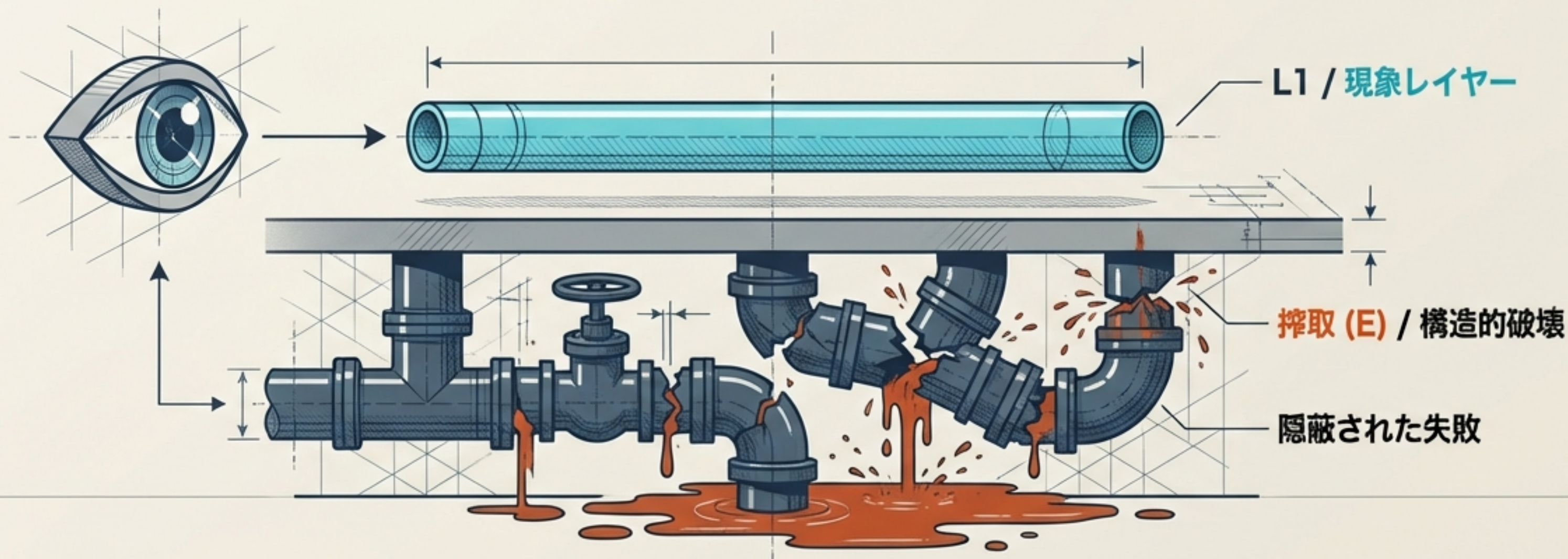
構造的司法OSは、因果がこの数式に接続しているかだけを監査する。

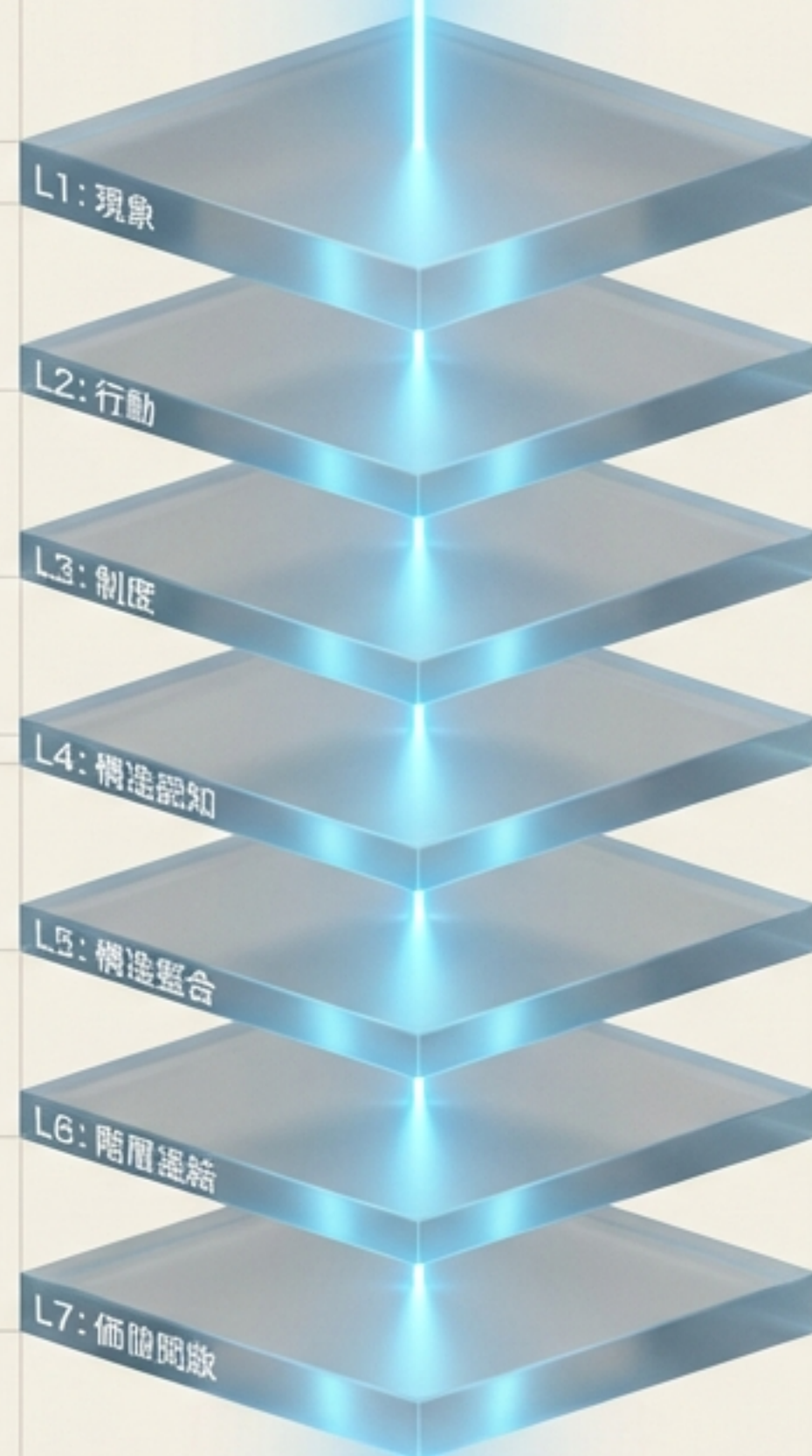
単一レイヤー（一層判定）は必ず誤る

なぜ、従来の評価・司法は破綻するのか？

「発言が正しいか (L1)」 「成果が出たか (L2)」 「ルールを守ったか (L3)」

これらはすべて部分最適の罠である。搾取 (E) は、正しい言葉を使い、善良な顔をして、ルールを守りながら構造を破壊する。





多層連結価値監査： 縦に貫く「串」としての司法

L1からL7までを一気通貫でスキャンし、
因果の整合性を監査する。

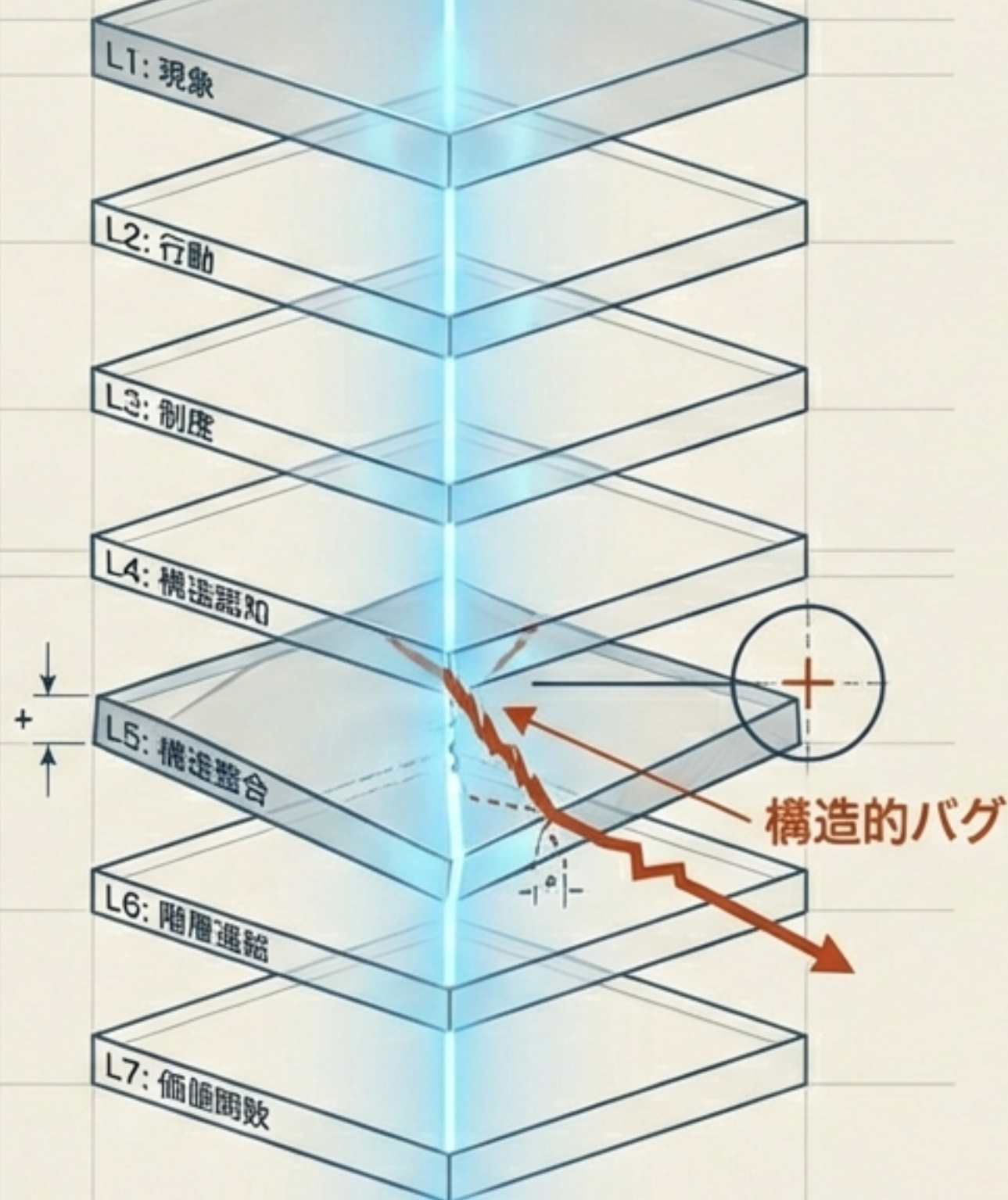
- L1：現象
- L2：行動
- L3：制度
- L4：構造認知
- L5：構造整合
- L6：階層連結
- L7：価値関数

**「人を見る」技術ではない。
「構造を見る」技術である。**

「ズレ」は人格の問題ではなく、配線のバグ

- L1（言葉）は整っているが、L5（設計思想）が歪んでいる
- 局所では貢献（C）だが、全体では搾取（E）になっている

これらはすべて「**構造的バグ**」として検出される。誰かを裁くためではなく、因果の不整合（ズレ）を見つけるために監査は実行される。

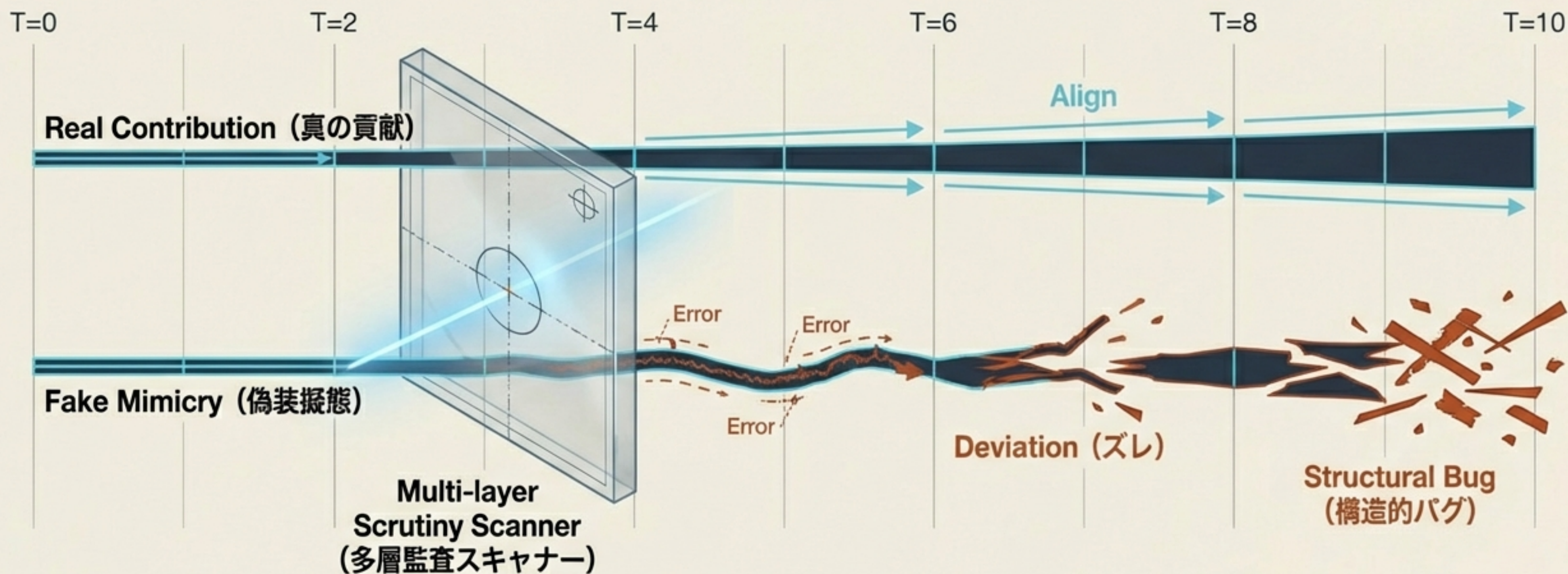


擬態 (Mimicry) は必ず露呈する

搾取 (E) はL1 (言葉・態度・短期成果) を偽装できる。

しかし、L1からL7までを一気に、かつ長期的に整合させることは不可能である。

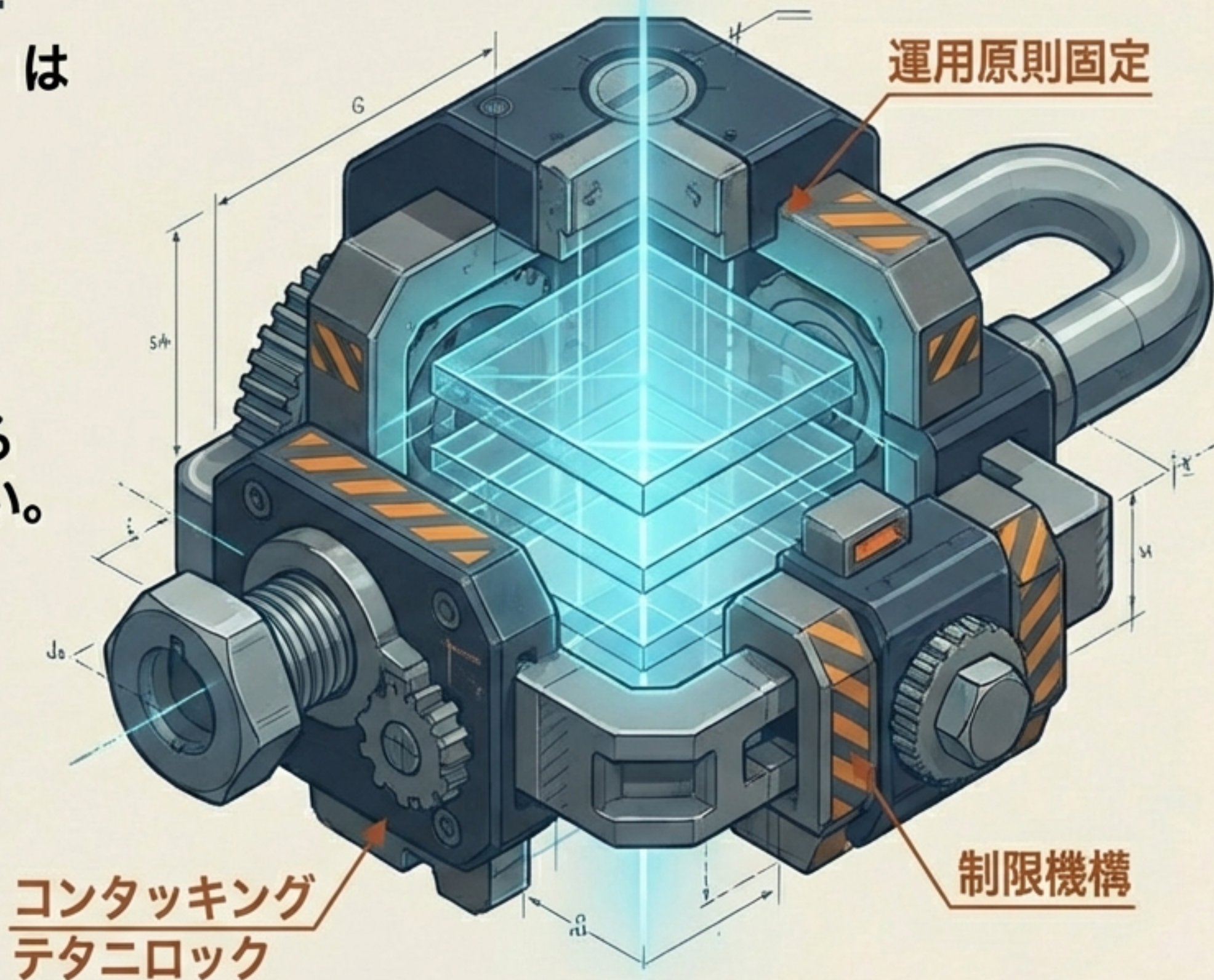
時間が経つほど、関係者が増えるほど、ズレは必ず拡大し、構造的バグとして可視化される。



権力化を防ぐ安全装置

構造を見抜く力（多層連結価値監査）は強力ゆえに、最も危険である。使い方を誤れば、容易に支配や排除の道具へと変質する。

だからこそ、判定ロジックより先に「どう裁いてはならないか」を定める運用原則が固定されなければならない。



監査の三原則 (T / S / R)

この三原則を同時に満たさない監査は「無効」とされる。

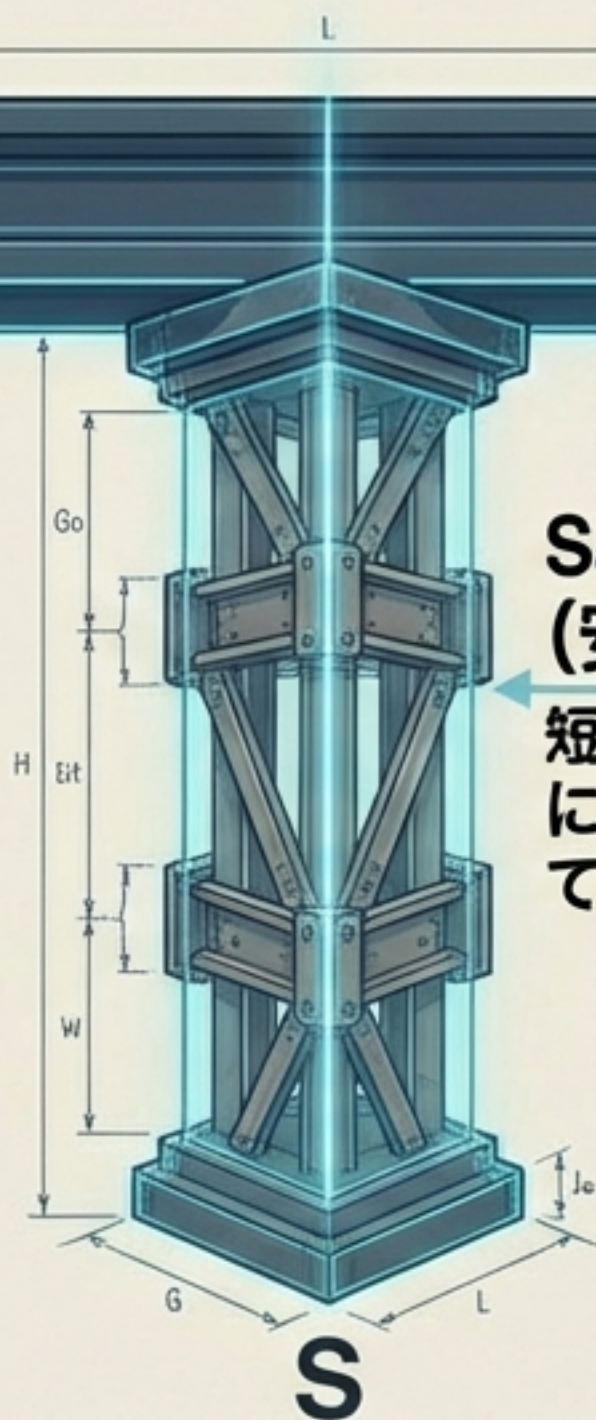
Transparency (透明性):

意図・判断プロセス
が説明可能か。



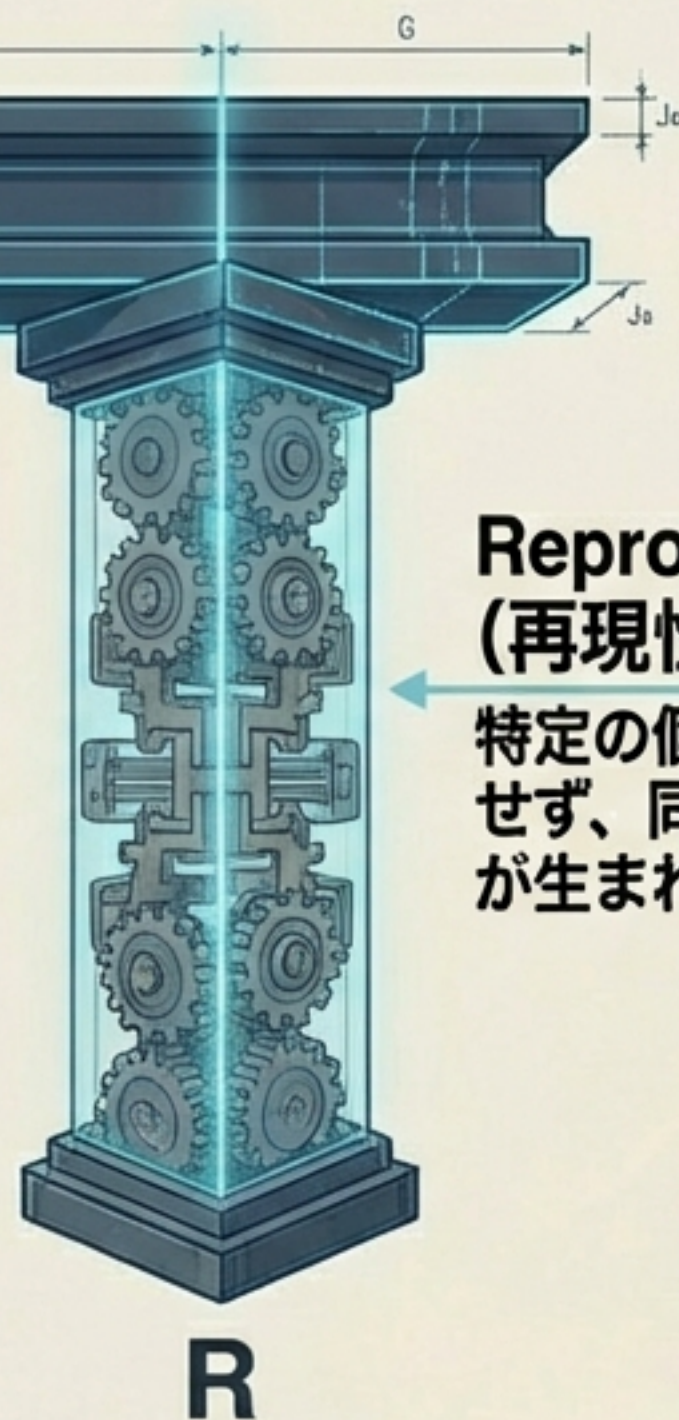
Safety (安全性):

短期成果のため
に構造を損傷し
ていないか。



Reproducibility (再現性):

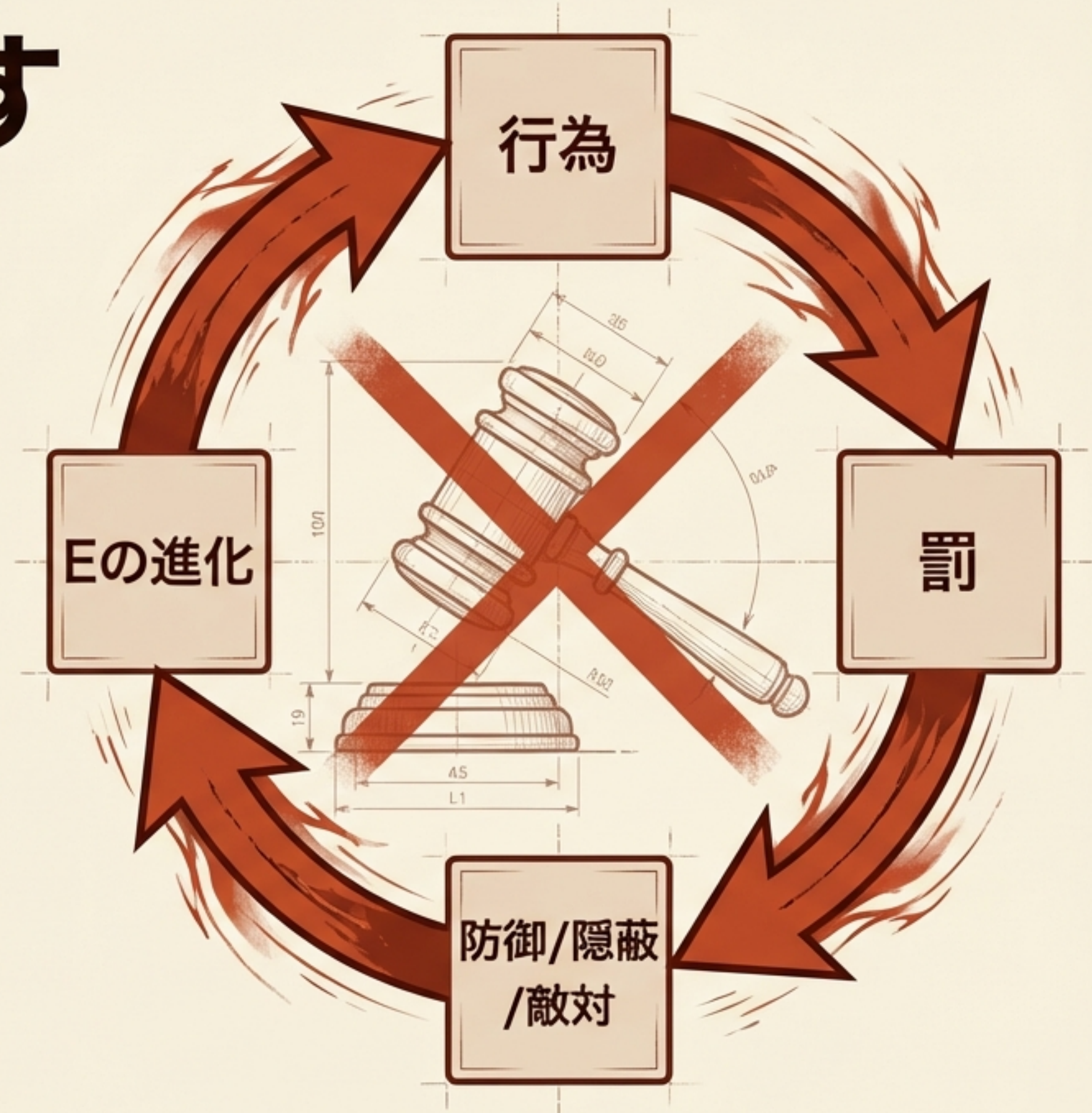
特定の個人に依存
せず、同条件でC
が生まれるか。



「罰」は文明を壊す

罰は行為の原因（構造）を修正しない。当事者を防御・隠蔽・敵対へと追い込み、周囲に萎縮を拡散させる。

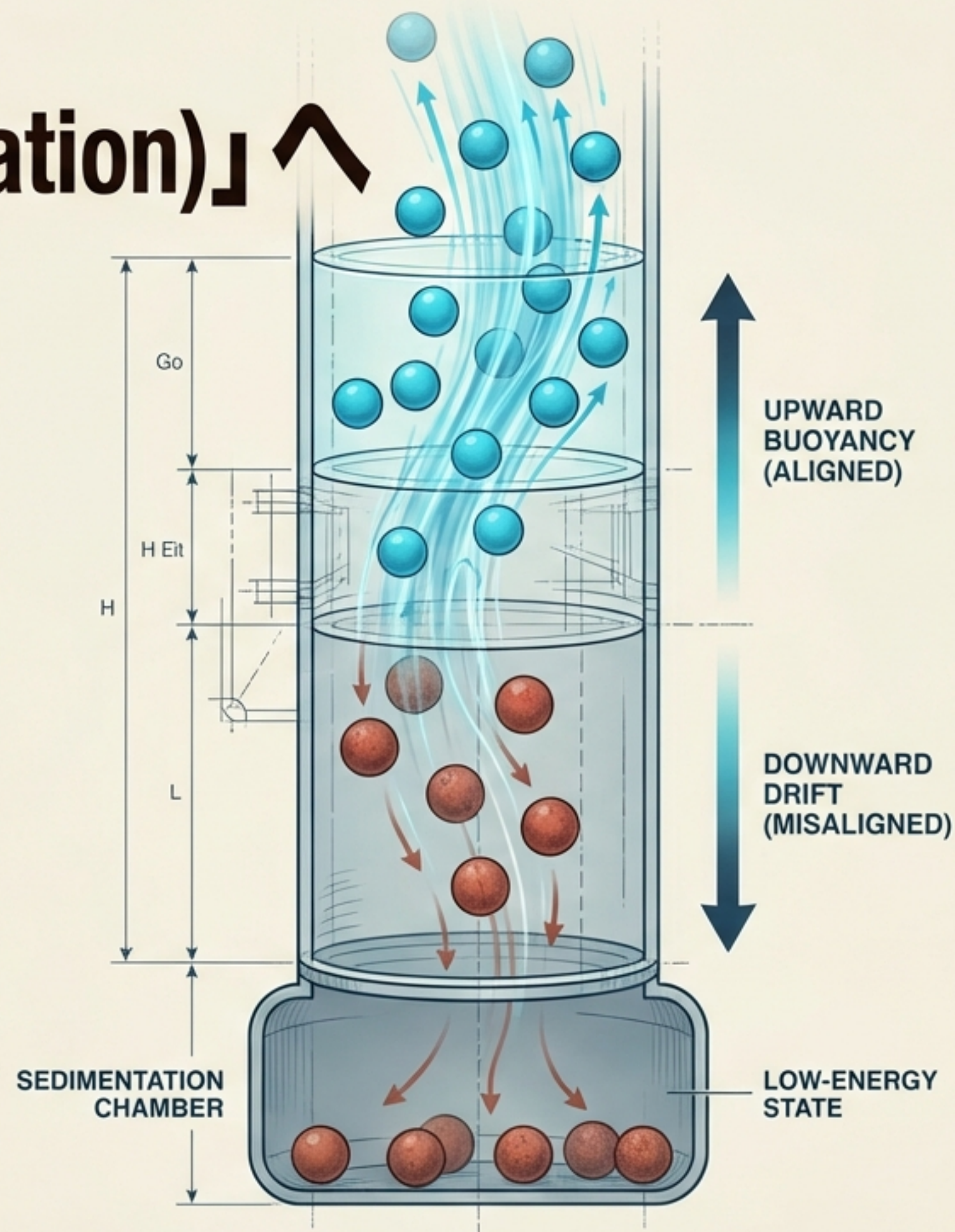
結果として、E（搾取）を抑制するはずの制度が、Eをより巧妙に進化させる。懲罰型司法は必ず破綻する。



「罰」から「沈降 (Sedimentation)」へ

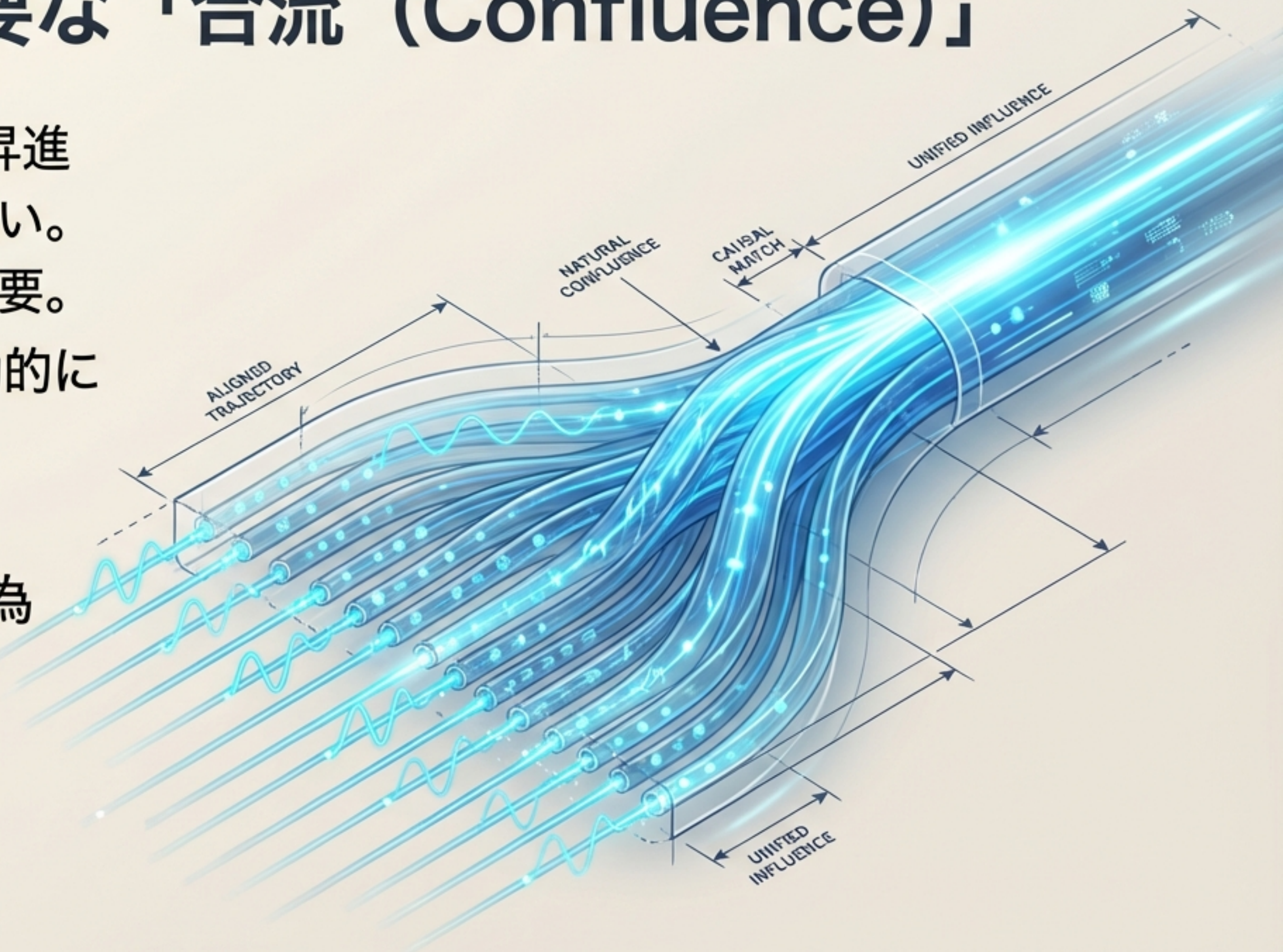
人を罰しない。過去を断罪しない。
代わりに行うのは、構造に接続させないこと。価値関数にズレたノードには「接続報酬」を与えない。

報われない行為は自然に選ばれなくなり、影響力を失って下層へ「沈降」する。排除ではなく、可逆的な位置の調整である。



赦しも承認も不要な「合流 (Confluence)」

構造的司法OSにおいて、昇進や合流は「承認制」ではない。推薦も、忠誠も、評判も不要。因果が合っていれば、自動的に合流し、影響力を持つ。沈降と合流は、誰かを落とす・上げる行為ではなく、構造を整えた結果の自然現象である。

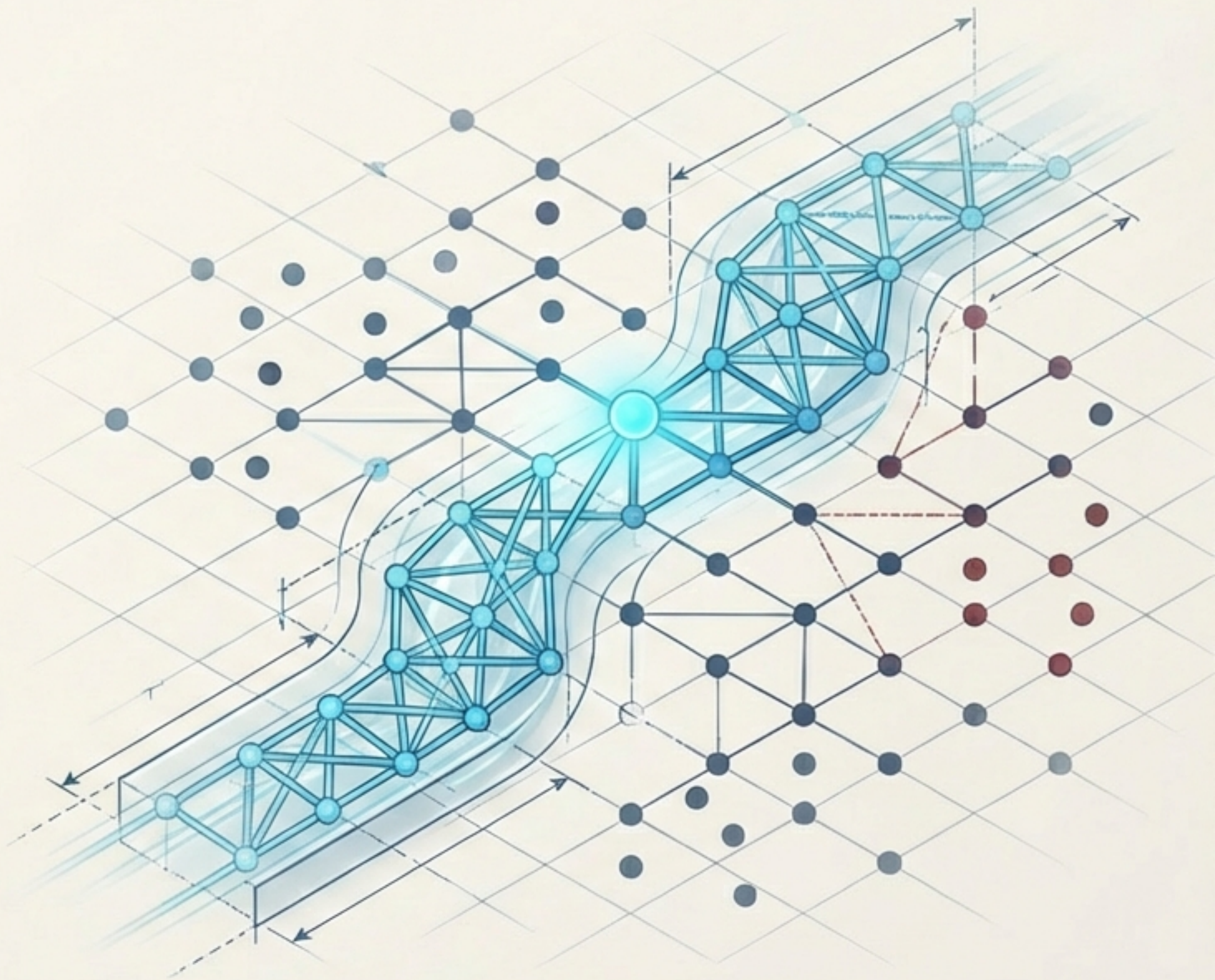


言い訳は不要。すべては「構造署名」に刻まれる

貢献（C）を積む人間には、意図せずとも構造の中に「署名」が残る。

- ・その人が関わると場が安定する
- ・いなくなっても成長が続く
- ・ノウハウが周囲に流れている

人格ではなく、この「自分が世界に残した構造的痕跡（ログ）」だけが記録される。



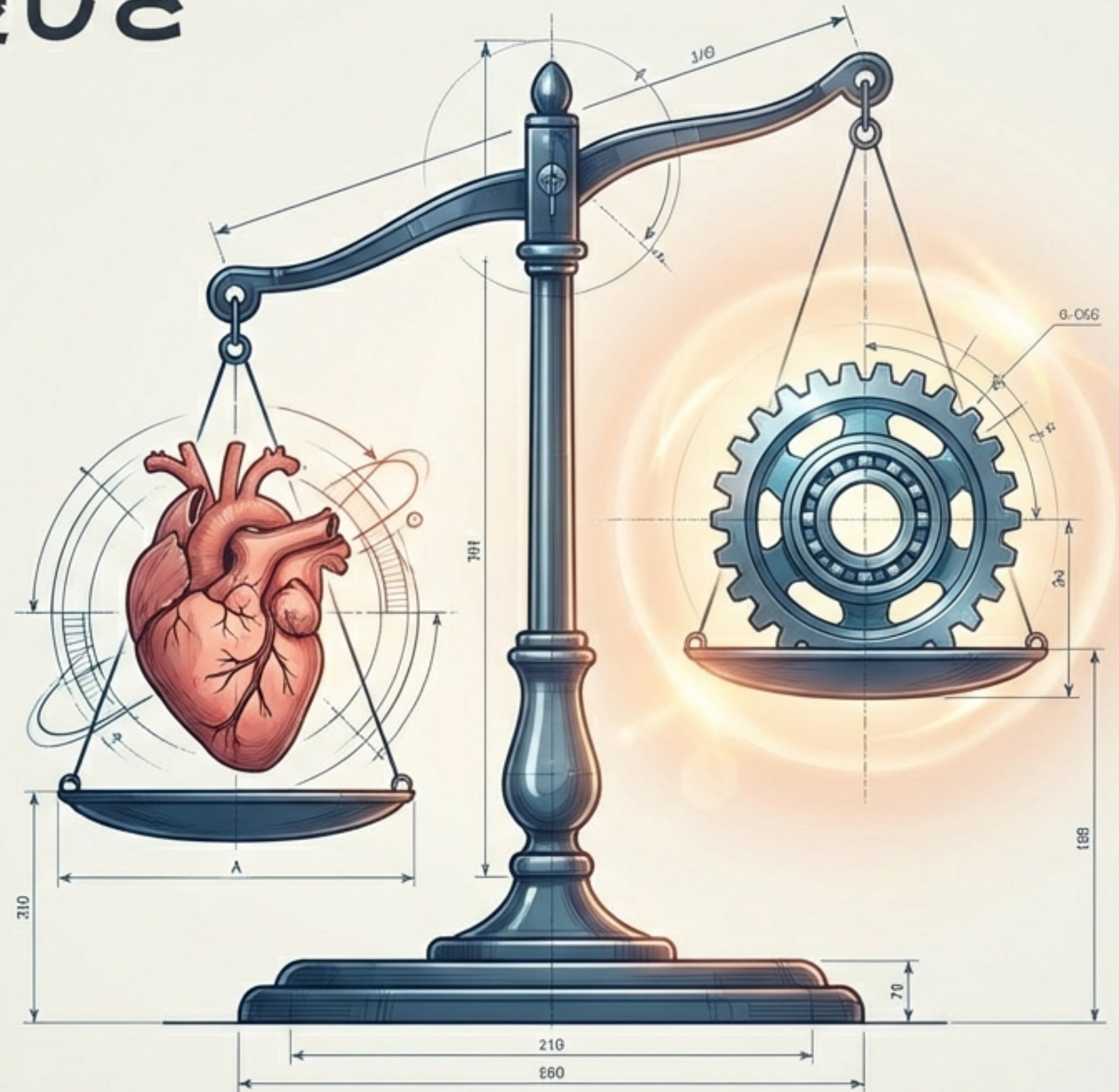
感情を排した、究極の優しさ

この司法は「冷たい」のではない。
感情に依存しないだけである。

感情に依存しないからこそ：

- 声の小さい人が守られる
- 説明が苦手な人が損をしない
- 時間をかけた貢献 (C) が正当に評価される

「構造だけを整える」ことが、結果として人を最も深く守る。



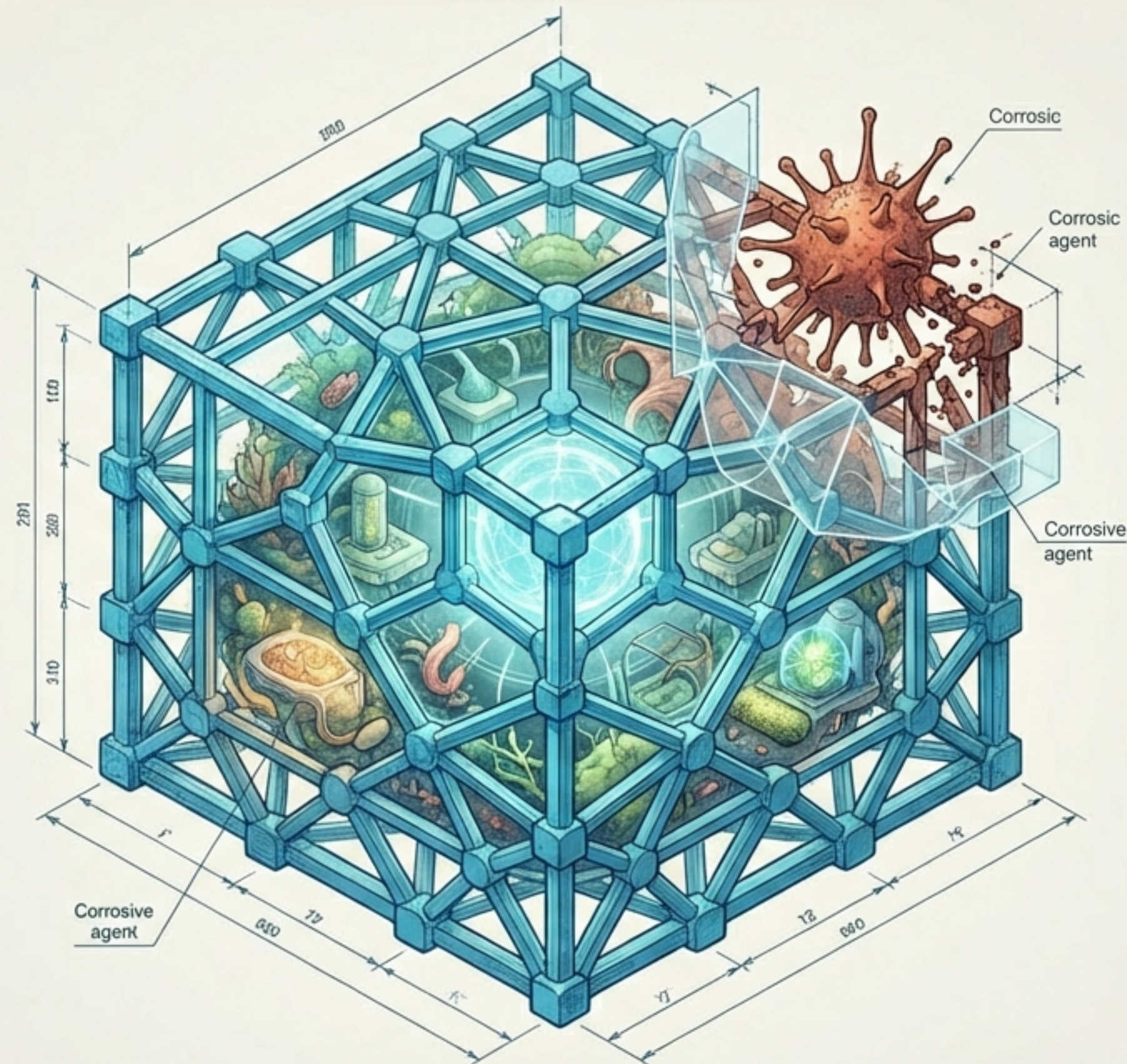
文明が自壊しないための「免疫システム」

構造的司法OSは、人類を管理する支配の装置ではない。

暴走を防ぐための**安全装置（免疫系）**である。

病原体を憎むのではなく、**異物を検知し、全体の安定を最優先する。**

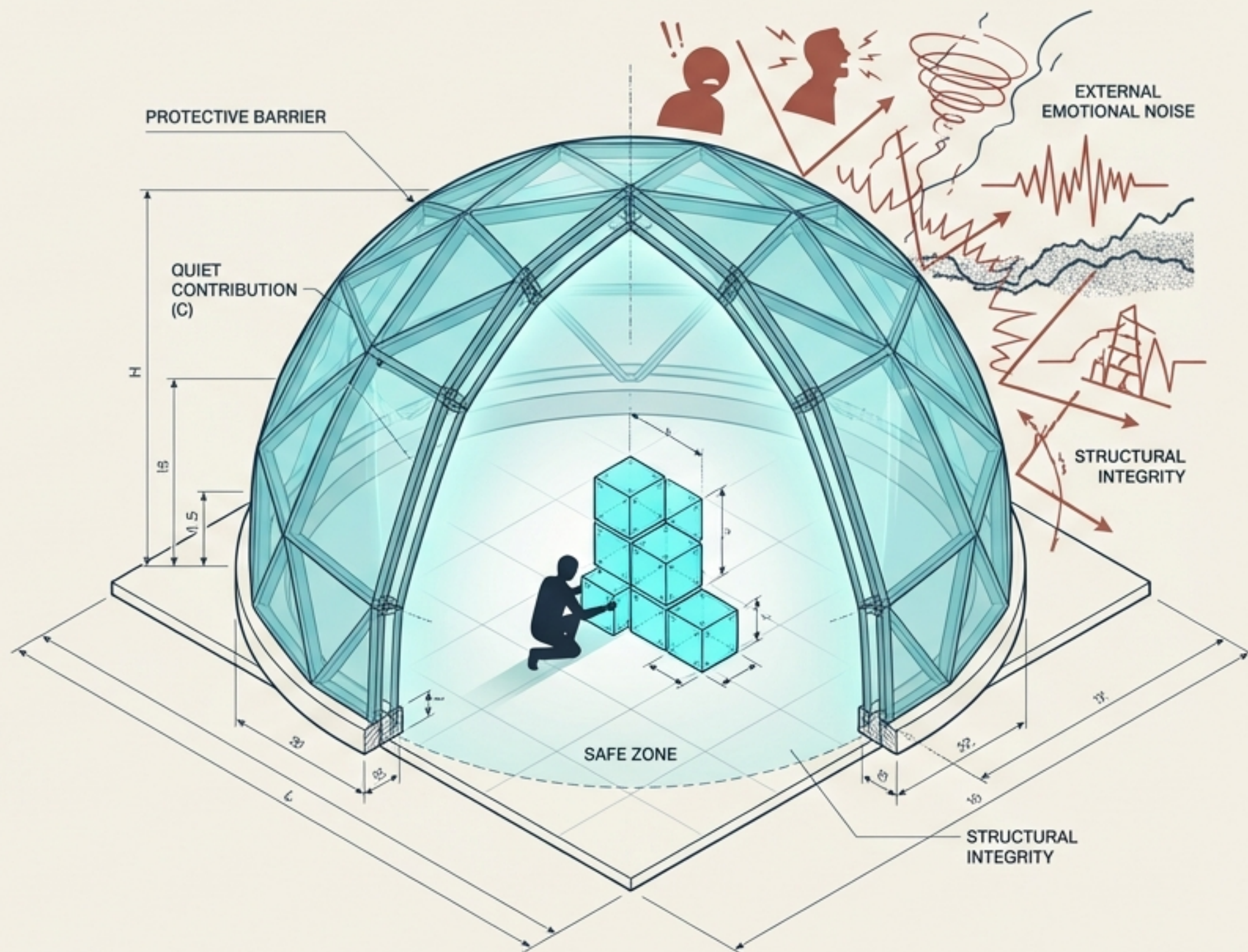
私刑や炎上が沈静化し、静かに貢献を積み上げる人が保護される**基盤**となる。



静かに貢献 (C) を積み上げる人を守る

国家でも、権力者でも、声の大きな正義でもなく、このOSが守るものはただ一つ。

派手な発言をせず、目立たない改善を続け、責任を引き受け、構造を残してきた人々。感情社会で最も傷つきやすかった彼らが、初めて構造的に保護される。



感情の法廷を出て、理の制御室へ

「誰が悪いか」を問う時代は終わった。

これからは、「構造は未来に向かって正しく流れているか」を問う。

怒りや正義感ではなく、因果の歩留まりを測る。

新しい文明OSの起動。